

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年 1月 25日

1. 概要

実践団体名	高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議		
連絡先	TEL : 044-865-0477		
プランタイトル	たかつ 地域との協働による 障がい者・高齢者等要援護者支援のための防災シミュレーション訓練		
プランの対象者	特別支援学校児童生徒・教職員・保護者・地域住民・地域の障がい者・高齢者・外国人・ボランティア	対象とする災害種別	地震

【プランの目的・ここがポイント！】

障がい児者や高齢者等災害時要援護者と地域住民（町会・自治会）協働のぼうさいシミュレーション「避難所設営訓練」。訓練を通し障がいのある児童生徒に防災意識を育てるとともに地域住民との協働により社会参加への機会を提供する。また、学校と地域との協働による訓練をとおして、障がい者等要援護者に配慮した避難所設営のあり方を探る。さらに、要援護者と地域住民との交流の機会とし、障がいの理解推進を図り地域コミュニティ活性化の一助とする。

【プランの概要】

- ・ 障がいのある方の保護者や支援者向け防災学習会の開催（4回）
- ・ 障がいのある方と保護者・支援者による夜間避難所設営訓練の開催
- ・ 教職員や支援者向け地域防災学習会の開催
- ・ 災害時に障がいのある方等要援護者を支援する防災ボランティア養成講座（3回）の開催
- ・ 地域との協働によるぼうさいシミュレーション（避難所設営訓練）の開催
- ・ 保護者・支援者のための「地震防災ガイド」の発行
- ・ 地域向け防災対策事業実践発表会、防災シンポジウム「災害時にすべて人の命を守るために～要援護者に配慮した避難所運営のあり方～」開催
- ・ 地域向け2011ぼうさいカレンダーの発行

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 町会・自治会等地域住民と障がい児者・高齢者・外国籍の方など災害時要援護者とその保護者・支援者との協働による訓練であること
- 具体的な場所（学校体育館や教室）を使用した実際的な避難所設営訓練であること
- 地域町会や自治会と特別支援学校が連携した災害時要援護者支援のための訓練であること
- 災害時の障がい者・高齢者等要援護者支援を目的とした実際的な訓練であること
- 特別支援学校障がい児支援の専門性を生かした訓練であること

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書


2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	第1回たかつ地域ネットワーク推進会議において事業計画詳細案・実施案の検討・承認	事業計画詳細案・実施案作成	詳細案・実施案の検討と承認
2008年 7月	第1・2回保護者・支援者向け防災学習会開催（兼夜間避難所設営訓練）	チラシ作成・広報活動・募集事務	第1回：過去の大災害の実態と大規模災害時要援護者への行政の対応 第2回：夜間避難所設営訓練
2008年 8月	教職員等支援者向け防災学習会開催	チラシ作成・広報活動・募集事務	地域防災環境の学習のためDIG（図上訓練）を実施
2008年 9月	第3・4回保護者・支援者向け防災学習会開催	チラシ作成・広報活動・募集事務	3回：川崎・横浜両市の大規模災害時要援護者支援の取組と要援護者登録制度　4回：大規模災害時の高津養護学校の対応と平常時の取り組み
2008年 10月	地域ネットワーク推進会議、ボランティア養成講座、防災シミュレーション訓練	事業中間報告案作成 チラシ作成・広報活動・募集事務、進行案検討	チャレンジプラン中間報告 ボランティア向け障がい者支援技術、チェーンソーなど実践技術の学習、避難所運営のあり方検討など
2008年 11月	参加者アンケート集約、「防災ガイド」発行準備	アンケート集約 支援者向け「防災ガイド」原稿作成	訓練参加御礼通知 アンケート集約と編集作業 実践報告会案内発送
2008年 12月	支援者向け「防災ガイド」発行準備 地域向け実践報告会案内	支援者向け「防災ガイド」原稿作成 実践報告書原稿作成	「防災ガイド」編集作業 実践報告書編集作業
2009年 1月	支援者向け「防災ガイド」発行 地域向け実践報告会	「防災ガイド」印刷発行 実践報告会開催準備	「防災ガイド」発行 地域向け実践報告会開催 ぼうさいカレンダー編集作業

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	第1・3・4回障がい児者の保護者・支援者向け防災学習会
実施月日（曜日）	7月9日（金）、9月16日（木）、9月29日（水）
実施場所	NPO法人わかくさ「若草の家」（1回）、高津養護学校（2・3回）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：植山 利昭 他1名 所属・役職等：川崎災害ボランティアネットワーク会議代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	（1回）2時間30分、（2・3回）2時間
プログラムのカテゴリ、形式	項目2. 学習会
活動目的	項目6. 防災に関する知識を深める
達成目標	災害時に障がい児者を支援する当事者となる保護者や支援者に対し、災害についての学習を通し、災害時の状況と理解をすすめる。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	（1）過去の大災害の実態と大規模災害時要援護者への行政の対応 （2）川崎・横浜両市の大規模災害時要援護者支援の取組と要援護者登録制度 （3）大規模災害時の高津養護学校の対応と平常時の取り組み
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ 災害ボランティア講師 ・ 机・イス・プロジェクター・PC ・ DIG用地図、マジック、テープ、ポストイット
参加人数	第1回20名、第3回14名、第4回12名
経費の総額・内訳概要	24,000円（講師謝礼・講師交通費：高津区協働事業費より）
成果と課題	【成果】 普段学校に来る機会の少ない保護者が12名参加した。また、障がい者施設での開催のため支援者である施設職員も参加した。 【課題】勤務時間外と言うこともあり施設職員の参加が少なかった。
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム②】

タイトル	第2回保護者・支援者向け防災学習会兼夜間避難所設営訓練
実施月日（曜日）	7月24日
実施場所	高津養護学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：植山 利昭 他1名 所属・役職等：川崎災害ボランティアネットワーク会議代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間（15:30～準備、18:30～受付、18:40～設営訓練、19:30～親子体験、20:30～振り返りアンケート記入、片付け、9:00解散）
プログラムのカテゴリ、形式	項目2. 学習会 16. 避難・防災訓練
活動目的	項目1. 遊び・楽しみながらの防災 4. 災害を想定した訓練
達成目標	障がいのある子どもたちと保護者・支援者による災害時避難所設営体験を実施。親子による防災学習をすすめ、体験を深める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	①避難所設営 ○ウレタンマット2、ダンプレート4を受け取り、指定された範囲に設営してください。○ご家庭から持参されたタオルケット等で、ゆったり休めるよう工夫してください。○各家族の入り口付近に名票（カタカナで）と要援護トリアージ用テープを掲示してください。（緊急援護要請は赤、要援護要請はオレンジ、巡回援護要請は黄色のテープを掲示して下さい） ②防災体験（親子で一緒に）19:30頃～i) たまごの殻踏み（災害時に足裏を守ることがいかに重要か体験します） ii) 簡易トイレづくり（避難所で不足するのがトイレです。ダンボールでつくってみましょう。） iii) 包帯づくり（必ず手を消毒してから取り組んでください） iv) 非常食試食（時間を考えて準備をお願いします）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・ 訓練指導講師：植山利昭他1名・準備物：長机6. イス16. ウレタンマット60、ダンプレート80、たまご殻多数、ダンボール箱20. 組み立て簡単トイレ5. ビニールゴミ袋15. 古シーツ3. 冷凍パック袋10. 消毒スプレー5. 非常食50. 非常水100. 蚊取り線香5. 懐中電灯10. 雑巾、足ふきマット、モップ、記録用カメラ
参加人数	本校児童生徒12人、保護者支援者24人、ボランティア4名、職員2名、指導者2名、計44名
経費の総額・内訳概要	指導者講師謝礼・交通費22,000円、参加者保険料8,600円、非常食・非常水31,200円、ダンボールトイレ4個12,000円、計51,800円（川

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>崎市高津区協働事業費より)</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】初めての夜間訓練と言うことで不安もあったが、想定した以上の参加者があった。保護者と一緒の訓練なので子どもたちも安心して参加できた。</p> <p>【課題】学校周辺の障がい者施設にも参加を呼びかけたが土曜日の午後と言うこともあり参加はなかった。</p>
<p>成果物</p>	<p style="text-align: center;">避難所体験体育館配置図</p> <p style="text-align: center;">非常口</p> <p style="text-align: center;">非常口</p>


防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	教職員等支援者向け防災学習会
実施月日（曜日）	8月30日（月）
実施場所	高津養護学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：植山 利昭 所属・役職等：川崎災害ボランティアネットワーク代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間（午後1時から4時）
プログラムのカテゴリ、形式	項目2. 学習会
活動目的	項目6. 防災に関する知識を深める
達成目標	赴任間もない教職員は学校周辺地域の防災情報を未学習である。そこで、DIG（図上訓練）を行い、地域理解に努めた。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	○ 川崎市及び高津養護学校の防災対策について ○ 学校周辺地域の地域的特徴と防災環境 ※18名を3グループに分け、グループワークと成果発表により、学習をすすめた。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	○ 神奈川県職員としての災害時の行動マニュアル ○ 高津養護学校の災害時対応マニュアル ○ 川崎市の防災対策について ○ 学校周辺の地図、マジック、ポストイット、テープ、ゴミ袋
参加人数	教職員18名、指導者2名
経費の総額・内訳概要	講師謝礼及び交通費6,000円（川崎市高津区協働事業より）
成果と課題	【成果】近年、教職員の移動により地域情報の理解が進んでいない。赴任1・2年目の教職員を対象に地域の防災情報を学習した。 【課題】特別支援学校の職員として、災害時に地域の障がいのある方々を支援するスキルを学んでいきたい。
成果物	※DIGで作成した防災環境地図


防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	災害時要援護者を支援する防災ボランティア養成講座
実施月日（曜日）	10月9日、16日、23日（土）
実施場所	高津養護学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：植山利昭、高田昭彦、勝田憲之 所属・役職等：災害ボランティア、障がい者施設しらはた施設長
所要時間または「コマ数×単位時間」	全日とも13時～16時、3時間、計9時間
プログラムのカテゴリ、形式	項目2、講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	項目3. 災害に強い地域をつくる。6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける
達成目標	災害時に要援護者を支援するボランティアを育成する
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	9日：「障がいの理解とボランティアの役割」ワークショップや疑似体験により障がい者支援の方法を学ぶ。また、災害時のボランティアの役割を知る 16日：「災害時の実践的訓練（ジャッキアップとチェーンソー）」 23日：「要援護者に配慮した避難所運営」ワークショップ（HUG避難所運営ゲーム）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	9日：机・イス・PC・プロジェクター・紙テープ・画用紙・ペットボトル・ラップ・軍手・折り紙等 16日：車用ジャッキ・チェーンソー・廃材・革手袋・机・イス・PC 23日：机・イス・避難所運営マニュアル・模造紙・マジック等
参加人数	9日12名、16日10名、23日23名
経費の総額・内訳概要	33,000円（講師謝礼・講師交通費：高津区協働事業費より）
成果と課題	【成果】日頃から障がい児者の支援にたずさわるボランティアや高齢者を支援する町会・自治会役員を対象に災害時の要援護者支援の方法について体験やワークショップを通しスキルを高めた。 【課題】実施内容について精査していく必要がある。
成果物	


防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑤】

タイトル	災害時要援護者支援を目途とした災害避難所設営の実際と運営訓練
実施月日（曜日）	10月30日（土）
実施場所	高津養護学校体育館その他教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：指導者、講師 氏 名：植山利昭、桑原 昭 所属・役職等：災害ボランティア、新潟県川口小学校元校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	8:30～12:30 4時間 (準備：資材運搬など計5日10時間)
プログラムのカテゴリ、形式	項目16. 避難・防災訓練
活動目的	項目4. 災害を想定した訓練
達成目標	地域と協働した避難所設営訓練となるか。また、災害時要援護者への理解がすすむか。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所設営訓練 ・ 避難所運営訓練 ・ 要援護者支援訓練 ・ トイレ設営訓練 ・ 足湯訓練 ・ ボランティアセンター運営訓練
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材：ボランティア25名 ・ 資材：プラスチックダンボール・ウレタンマット・組立トイレ・コンクリート平板・ブルーシート・毛布・ヘルメット・掲示板・メガホン・洗い桶・タオル・非常食・非常水・養生テープ・訓練用ボトルキャップ・子ども用プール・文房具等
参加人数	参加者：120名（児童・生徒・保護者35、一般30、行政・学校等40、ボラ25）
経費の総額・内訳概要	計143,000円（資材購入122,000円、講師謝礼21,000円高津区協働事業費より）
成果と課題	【成果】台風影響下の荒天にもかかわらず、多くの方々の参加を頂いた。参加者から「初めての経験」「緊迫感があった」「来年も参加したい」など好評であった。【課題】：地域の参加者から「訓練を継続して」という要望が多数あった。
成果物	 <p style="text-align: center;">トイレ設営 ・ 避難所設営 ・ ボランティアセンター ・ 足湯</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑥】

タイトル	防災訓練実践報告会シンポジウム「災害時にすべて人の命を守るために～要援護者に配慮した避難所運営のあり方～」
実施月日（曜日）	1月22日（土）
実施場所	高津養護学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：シンポジウムパネラー 氏 名：柳澤弘毅（障がい者施設職員）原山朋子（高津区防災担当）石神一代（PTA 会長）浅田幾美（町会長）高田昭彦（災害ボランティア）外記佳子（司会：高津区社協職員）
所要時間または「コマ数×単位時間」	9:45～12:00 2時間
プログラムのカテゴリ、形式	項目3. 報告会・シンポジウム
活動目的	項目3. 災害に強い地域をつくる 8. 防災意識を高める
達成目標	防災訓練の成果を地域に以下に還元できるか。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	○ 訓練報告 ○ 防災シンポジウム（各会関係者より災害時要援護者支援について発言をいただく）○まとめ
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	・ 人材：シンポジウムパネラー6名 ・ 準備物：机・イス・PC・プロジェクター・実践報告書・マイクアンプ・電源コード
参加人数	参加者：30名（保護者8、地域の方10、行政・学校等7、ボラ5）
経費の総額・内訳概要	30,000円（パネラー謝礼・交通費、高津区協働事業より）
成果と課題	【成果】単なる事業報告ではなく、障がい者施設職員・保護者・地域町会役員・行政・ボランティア等各関係者から貴重なご意見を拝聴することができた。【課題】：この訓練の成果を今後どう生かしていくか。また、生かしていけるか。
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>地域と学校の協働によるぼうさいシミュレーション「避難所設営訓練」ということで、地域との関係作りに時間を要した。当然のことであるが、地域の町会や自治会の集まりは休日のしかも夜間に開催される。当然学校業務の位置づけにはならない。地域との関係作りはこうした努力や地域行事への積極的な参加により、実現性が見えてくる。</p> <p>特別支援学校はその通学区域が大きく、本校も人口域で言えば 150 万人を超える。指定の避難所がある小学校の通学域居住者は数人に過ぎない。そういった地域で地域と関係をつくっていくことは、「防災」という共通課題で協力関係をつくることは重要である。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>「防災教育」というキーワードで本年の取り組みは、「児童生徒の参加者を増やす」ことをねらいとした。子どもたちが取り組みやすい「たまごの殻踏み」や「包帯作り」「足湯訓練」などをメニューに入れた効果はあった。</p> <p>同時に特別支援学校の児童生徒の参加は保護者や支援者の協力が欠かせない。保護者や支援者の理解なしには「訓練」は成立しない。そのため、保護者・支援者向けの学習会を 4 回にわたり開催し、丁寧に開くことで「防災」への関心を涵養できた。第 2 回目の「夜間避難所訓練」は保護者の提案によるものである。</p> <p>また、第 1 回 2 回の学習会を夜間に開催できたことは昼間に学校に登校しにくい、保護者（父親）の参加を増やす効果があった。また、多くの参加者から、訓練の継続性を指摘されたのはこの成果だと考える。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>児童生徒向けの訓練は教職員の協力も必要である。地域との協働による「訓練」ということで土曜開催になったが、多くの教職員が参加してくれた。</p> <p>障がい児者支援の専門家として、その専門性を生かし、地域住民やボランティアと訓練できたことは「災害時要援護者支援のための防災訓練」というキーワードを実践できたと自負している。</p> <p>「要援護者支援訓練」では、本校職員とボランティアが 2 人 1 組となって避難所での「聞き取り調査」を行い、トリアージ的な発想でその「緊急度調査」を実践できた。ボランティアの多くは地域の民生委員 11 人の方々と、日ごろ障がい者支援にたずさわる方々である。</p> <p>また、「足湯訓練」でも「コップ 1 杯で足湯」のコンセプトを本校養護教諭が提案し、ボランティアと実践できた。日ごろ「災害ボランティア」活動を実践している方々にも少なからず野影響があったようだ。</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	県立麻生養護学校、横浜市立本郷特別支援学校、川崎市立高津中学校	訓練参加協力、防災訓練講師招請
保護者・PTAの組織	高津養護学校PTA、高津養護学校おやじの会、麻生養護学校PTA、本郷特別支援学校PTA	学習会、訓練参加協力
地域組織	高津第2地区社会福祉協議会青少年部会 高津区上作延町会・高津区不動丘団地自治会、療育ネットワーク川崎、障がい者施設あかしあ園、しらはた、	学習会、訓練参加協力、ボランティア協力、協働開催
国・地方公共団体・公共施設	川崎市高津区、川崎市高津市民館、高津区社会福祉協議会、	事業助成、参加協力、広報活動協力、シンポジウムパネラー派遣
企業・産業関連の組合等		
ボランティア団体・NPO法人・NGO等	川崎災害ボランティアネットワーク会議 NPO法人わかくさ	学習会、防災訓練講師派遣、学習会会場提供、参加協力、ボランティア協力
職業、職能団体・学術組織、学会等		

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	<p>障がい児者の地域生活を支えるためには、学校の所在地域と子どもたちの居住地域双方での学校理解や障がいの理解推進はかかせない。災害時に要援護者を支援するためには、日ごろからの関係作りは重要である。地域と学校の共通課題である「防災対策」をテーマとすることで、地域との「連携と協働」を推進し、学校理解や障がいの理解推進をはかることは障がいのある子どもたちの地域生活をより安全・安心なものへと向かうことを目的としている。</p> <p>災害時、本校児童生徒のような障がいのある子どもたちが、いわゆる「避難所」で避難生活を送るには非常な困難を伴うことは過去の災害が示している。</p> <p>地域と協働してこのような訓練を実践できることは、地域にお住まいの災害時要援護者に多少の安全安心を提供できるものと確信する。</p>
全体の反省・ 感想・課題	<p>参加者の感想意見を集約した。</p> <p>①(障がいがある)子供を連れて初めて参加した。避難所の設営など、使うものも初めて見て、良い体験となった。また、パーティションの使用など養護学校ならではの取り組みだと思った。</p> <p>②受付の色違いガムテープによる名札着用は良かった。伝達は掲示板利用により各会場が静かに保たれていて良かった。ボランティアさんの動きに助けられた。健康面、困り事等の聴き取り調査の集約の大切さがわかった。またトリアーژی的なシールのその後の取り扱いについて知りたかった。③避難所でなくても避難されてくる方は多いと思うので、災害を想定した訓練は有意義だと思う。特に地域の方が参加することはとても良いと思った。④子ども、お年寄り等、地域には養護学校在校生と似かよったニーズを持つ住民がいる。施設面でも食堂(厨房)、プール、給湯設備等が整っていると思う。学校が、特に養護学校が避難所の核のひとつになるよう施設設備を含め、訓練が続けられることは大切だと思う。⑤町会として今後とも協力をしていきたいと思う。又、要介護者の問題は私達の課題ともなっている。ご協力をお願いしたい。⑥高齢者支援をしているが、地域との連携は言うのはやさしいが、なかなか進まないことが多い。様々なところで少しずつネットワークを築いていくことができればと考える。特に防災はすべての人の関心事である。</p> <p>以上が示すことは、今後の取り組みに重要な示唆を与えてくれる。来年度の取り組みに向け課題としたい。</p>
今後の 継続予定	<p>地域の期待感を強く感じた。今後も実施内容を精査しながら、参加しやすい訓練も目指し、地域と協働・協力しながら続けていきたい。地域の方々を始め、多くのボランティア・障がい者団体・行政関係者等、この活動を支えてくれる方々に感謝するとともに、地域で安心して暮らせる社会づくりに寄与できるよう、今後の訓練継続に尽力したい。</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

7. 自由記述欄 ①「訓練参加者の感想」

大規模災害時における障がいのある方への支援～保護者として考えること～

高津養護学校おやじの会 会長 北村 奨

「もし大規模災害がおきたら、わたしたち家族はどうなるのだろうか?」。今回、高津養護学校で計画された防災訓練の一部に参加して、この疑問を妻と娘（中3）に投げかけてみました（息子は中1、重度の知的障がいを伴う自閉症児です）。

「家族や学校の先生たちという限り、とりあえずの安全は確保できそうだね」「避難場所は近くの小学校だよ」「だけど、そもそも家族4人で避難ってできるの?」「（息子は）もともと団体行動が大の苦手なんだから、健常の人たちがパニックになっている状況ではもっと難しいんじゃない?」「きっとパニックになったり、奇声をあげて、近所のひとに迷惑をかけたくなるんだろうなあ」「私たち家族が不安だと、特に荒れるもんねえ」「食事やトイレで列にも並べないだろうし」「知らない人たちから怒鳴られたり、白い目で見られたりするのかなあ」「うーん。そう考えると、車で寝泊まりするのもやむを得ないのかなあ」「新潟の地震のときは、車で長期間いてエコノミー症候群で亡くなった方もいたじゃない」「でも、近所の人たちと一緒に避難するよりいいよ...。」

障がいをもつ子供の家族として、我が家が決して特別な家族であるとは思えません。残念ながら、一般的に、障がいをもつ子供の家族は、災害に対してこういったある種の諦めを抱えているようです。特に、健常な人達さえもパニック状態にならざるを得ない大災害時の状況において、地域の方々が、行政の方々が、ボランティアの方々が、息子たちの障がいを正確に理解し、彼らとその家族に適切な援助ができるかという、現時点では疑問に感じざるを得ません。また、あくまでも個人的印象ですが、障がいをもつ子供の家族は、公共の場において、これまでになんらかの負い目や辛い思いを感じているケースが多いように思います。これ以上、子供たちを傷つかせたくない。自分たちも傷つきたくない。そんな自己防衛の気持ちが避難所ではなくて、車で過ごすということを選択するのもかもしれません。

しかし、今回、高津養護学校の防止訓練活動に参加して、2つのことが私を大きく勇気づけてくれました。ひとつは、ボランティアの方々が、息子の障がいに関して興味を持ってくださったこと、そしてもうひとつは、防災訓練に多くの地域の方々が参加していただいたことです。残念ながら、これまで、家族と学校関係者以外の方々が、息子たちに興味を示してくださったり、理解を持って接してくれていると感じる機会はあまりありませんでした。今回の防災訓練を通じ、改めて「息子たちはたくさんの人達から見守られている」と感じ、大変暖かい気持ちになりました。今後は、防災訓練活動を通じて、地域の方々、行政の方々、ボランティアの方々に、息子たちの障がいを少しでも理解していただくよう親として発信していければと思います。そうすれば、きっと障がいをもつ子供やその家族も、地域の方々と一緒に安心して避難できる状況が作り出せるであろうと期待しています。

最後に、今回の防災訓練を企画していただいた高津養護学校地域支援担当の先生方、および訓練当日にお話をいただいた新潟の桑原校長先生に感謝いたします。桑原校長先生が、「年に1回訓練しても意味はない。体に染み付くくらい繰り返し、繰り返し、やってください」という言葉は胸に感じ入りました。息子の生涯において大災害に遭遇しないことを心から願うとともに、「体

防 災 教 育 千 ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

にしみつくように」今後も災害訓練に積極的に参加していきたいと思います。また、この体験をおやじの会をはじめ、多くの保護者と共有できたらと感じています。

「防災シミュレーション～災害時障がい者等要援護者支援のための避難所設営訓練～」

大規模災害時における障がいのある方への支援と障がい者施設のあり方

長尾福祉会 しらはた

施設長 勝田 憲之

備えあれば憂いなし。この格言は今も生きています。

「施設全体で大災害の備えを考えなければならない。」としらはたが開所した7年前から思っていたのですが、通常業務に忙殺されてしまって何も手を付けることができませんでした。たぶん、心のどこかで「大災害」は起きないと考えているのでしょう。

また、時間のあるときに災害についての情報を集めはするものの、シミュレーションができず、まとめることができていませんでした。

3年前に高津養護学校から避難所設営訓練についての講師として「施設の立場から少し話して欲しい」との依頼があり、かかわりを持たせていただいたのがご縁で、少しずつですが、大災害のときの対応について施設全体で考えることが増えました。

変化をととても嫌う障がいのある方たちにとって大災害が起こったときにどのようなことが起こるのか……。また、施設が地域の方たちの避難場所としてどのように機能するのか、障がいのある人たちとうまく空間を共有できるのか……。など、考えているだけではわからないことがたくさんあったのですが、今回の避難所設営訓練の講習会で具体的に災害日時、天候、災害規模などを明確にしたシミュレーションがあり、そこに参加していた地域の方たちとディスカッションできたことは、今まで考えてもいない事態をいろいろ推測することができたことがとても参考になりました。

障がい者施設が大災害に見舞われたときにどのような対応をとるべきか、残念ながら行政からの指針も、マニュアルもありませんが、初心に戻り「備えあれば憂いなし」の精神で、地道に進めていきたいと思っております。

また、このような取り組みを地道に進めていくことの重要性を再認識させていただいたこの研修に感謝しております。参加させていただきありがとうございました。